

各種B I M連携

- ・ 上流構造設計ソフトとの連携
- ・ 設備設計ソフトとの連携

従来の設備情報の流れ

1. 鉄骨ファブにより鉄骨伏図が作成され設備業者に渡される。
2. 設備業者は伏図からスリーブを決定し、伏図に加筆し鉄骨ファブへ渡す
3. 鉄骨ファブはそのスリーブ情報を干渉チェック、設備条件等により判定を行い、判定結果を設備業者に返す
4. 上記ループを何度も繰り返す
5. その間に構造体の設計変更が発生し、事態はより複雑化
設備情報決定遅れの大きな要因となる

★ K A P システムを使用した設備情報の流れ ★

1. 設計図書に記述されたスリーブ貫通基準（可否ゾーン）を入力します。
2. 鉄骨伏図にスリーブ貫通基準を表現します。
3. 鉄骨躯体と共にスリーブ可否ゾーンを 3D 情報で出力
4. 上記 2D, 3D 情報を基に設備業者はスリーブ配管を決定します。
5. 設備配管位置データは CSV で KAP システムへ渡され、一括で KAP システムのスリーブデータに変換される

**鉄骨躯体との干渉や、スリーブ配置 NG ゾーンを知ることができる
KAP システムでのスリーブ入力も省力化され手戻りが減少する**

その他

- ・ 他業者のモデル取り込み
- ・ 階段の 3D モデル取り込み受梁等の納まりチェックを早期にできます。